

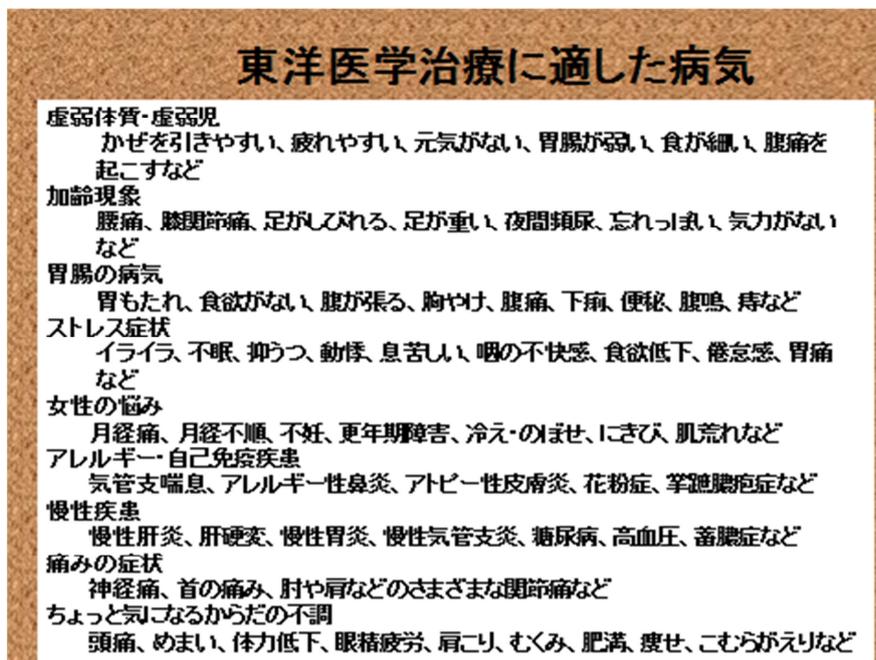
第42回漢方教室（鍼灸）

大学病院の漢方！－西洋医学と漢方の融合－

鍼灸治療は1500年前に僧によって仏教とともに日本に伝来し、伝統医学として我々のご先祖様の健康に帰依してきました。しかし、明治維新により医学は今の西洋医学となり鍼灸と漢方は王道から外れてしまいました。鍼灸は医療機関で施行されることが少ないのが現状でした。しかし、最近では約20の大学病院で鍼灸外来が行われるようになってきました。ちなみに東海大学では、1984年から大磯病院で2003年から付属病院で行われています。大磯病院も付属病院も受診される患者さんは女性が多く、全体の約6割を占めています。また受診年齢は、10歳代から90歳代まで幅が広いのですが、60歳代の方の受診が多い傾向です。また、受診時の主訴は「運動器疾患の痛み」が多く、その中でも腰痛の患者さんがよくみられます。

また、院内他科からの依頼による患者さんの特徴は、大磯病院では整形外科から「痛み」に対する依頼が多いですが、付属病院では東洋医学外来と併設しているため、痛みだけではなく、東洋医学的に適応とされている症状（※）に対する依頼が多くみられました。

※



今回の「漢方教室」では、椎間板ヘルニアの症状が軽減したケースや手術後の違和感が軽減したケースをご紹介します。

当院での鍼灸治療は、東洋医学的視点のみで病気を追って治療するのではなく、現代医学的治療の補完など両医学の視点で治療を計画して行っております。